

法政大学人間環境学部キャリアチャレンジ2019年度I期  
Aコース、Bコース、Cコースの募集要項

※「キャリアチャレンジ」は、同じ選択必修科目である「フィールドスタディ」と実施日が重ならないかぎり、同時期に履修することができます。

1. 各コースの概要

(1) Aコース 授業コード：AA0082

「川崎市中原区武蔵小杉における都市のサステナビリティとコミュニティ政策研修」

① 目的

2017年3月に締結された法政大学と川崎市の中原区武蔵小杉駅周辺地域のまちづくりに関する交流・連携協定に基づいて、持続可能な都市を模索する域学連携事業の一環として実施します。

超高層マンション群の建設で人口が急増し、メディアでもたびたび報道され、全国的にも注目を浴びる武蔵小杉駅周辺地域には、同時に都市の持続可能性に関する多様な課題があり、中長期的な視点で都市政策を展開する必要があります。そこで、法政大学附属二中校も立地し法政大学との縁が深い同地域のコミュニティ政策について、川崎市中原区役所地域振興課の公務研修生として取り組みます。

2019年度は、2040年における武蔵小杉の望ましい姿を描いた「コスギ・コミュニティビジョン2040」の実現に向けて、同ビジョンが掲げるライフ&ヘルス・コミュニティに関わる、健康やWell beingをテーマとするプロジェクト（ラサンテ・プロジェクト）に取り組みます。区役所以外にもNPOなど、地域のいくつかの事業者・団体と連携します。また人間環境学部のキャリアチャレンジを、他大学の学生も含めた若い世代が交流人口・関係人口として集うことを模索するための試金石と位置づけます。

21世紀型の都市問題に直面する武蔵小杉を持続可能な都市にできるのかという問題に、学生の若く柔らかな視点でコミットすることがミッションです。

② 受け入れ団体

川崎市中原区役所地域振興課

③ 対象学生と人数

2年生以上で4~5名程度とします。

※ローカルサステナビリティ・コースに限らず、全てのコースの学生に推奨します。

特に、自治体職員や公的団体への就職を志望する学生に推奨します。

④ 行程

8日間＋任意参加のオプション研修1日)

① 8/21(水)、②8/22(木)、③8/23(金) or 8/24(土)、④8/26(月)、  
⑤8/27(火)、⑥8/29(木)、⑦8/30(金)、(op) 9/1(予定)、(金) ⑧9/3(火)

※全行程日帰りです。

※3日目は、現地NPOの協力に関する今後の協議で8/23か8/24のどちらかになります。

※任意参加のオプション研修（Vリーグ NEC レッドロケッツによる子ども向けバレーボール教室の運営支援）は現時点では確定していません。

⑤ 費用

自宅から現地（JR及び東急の武蔵小杉駅）までの交通費と昼食費です。

(2) Bコース **授業コード：AA0083**

「山梨県小菅村における持続可能な山村づくり研修」

① 目的

2017年3月に締結された法政大学と山梨県小菅村の交流・連携協定に基づいて、多摩川源流地域の山村における持続可能な地域社会の可能性を模索する域学連携事業の一環として実施します。

都市生活者である学生が、村人（むらびと）生活というライフキャリアにおける貴重な経験を送りながら、行政やNPOの協力で、山村づくりにコミットしながら、伝統的な集落の祭にも参加することで、人間的成長の機会とします。

小菅村は、様々な山村づくりを展開していることで有名です。従来からの、イワナやヤマメなど川魚の養殖、こんにゃくやわさび栽培、村営温泉、道の駅、アドベンチャー施設の建設に加えて、地ビールとジビエ料理など新たな食の魅力の開発、住民も参加する観光地経営（ディステイネーション・マネジメント）にも取り組んでいます。

人口740の山村ですが、定住人口の維持とともに、観光などを通じた交流人口（3分の1村民）と、むらづくりにかかわる関係人口（2分の1村民）を増やし、多摩川源流域の環境・文化の保全と地域経済の振興の両立を図っています。

これまでの山村づくりにより、毎年、環境体験学習で多くの子ども達が訪れ、近年は山村留学のための家族連れの新住者も増えています。そして、法政大学を含む東京の複数の大学の学生も学びに訪れ、地域起こし協力隊により新たな人材も集まっています。

限られた期間ですが、持続可能な小菅に向けた関係人口になることをミッションとします。

② 受け入れ団体

山梨県小菅村

③ 対象学生と人数

2年生以上で6～9名程度とします。

※むらびと経験は全てのコースの学生に推奨します。

④ 行程

8月26日（月）～9月2日（月）までの7泊8日

※受け入れ団体の都合により、8月27日（火）からの6泊7日になる可能性もあります。

⑤ 参加費用

自宅から現地までの交通費（JR中央線大月駅から路線バス）のほか、自炊費用（1万円程度）+村内生活費の合計でおおよそ2万円程度の予定です。

(3) Cコース **授業コード：AA0084**

「千葉県香取市佐原のシビックプライドのまちづくりと

サステイナブル・ツーリズム研修」

① 目的

千葉県香取市佐原地区は、歴史・文化・景観・自治・観光といった観点から都市のサステナビリティを考えるには最高のまちといっても過言ではありません。

歴史的町並み保全（関東で初めての重要伝統的建造物群保存地区、日本遺産）、大祭（重要無形民俗文化財・国宝・ユネスコ無形文化遺産）、江戸時代に日本地図を作成し、「地域社会が豊かでなければ人は豊かになれない」という信念で地域経営の礎を築いた伊能忠敬（2018年が没後200年）などは全国的にも有名です。江戸時代から200年以上、まちづくりを続けた佐原は、まさに都市のサステナビリティを学ぶフィールドとしても最適です。

江戸との水運で結ばれ、「水郷のまち」として発展しながら、自らの都市文化を「江戸優り」と表現するシビックプライドを育ててきた佐原は、東日本大震災を乗り越え、歴史と伝統文化を活かしながらも、洗練されたレストランの集積などの店舗開発、町屋を活用したホテルによる宿泊拠点の整備など、創造的で革新的なまちづくりの営みを継続させ、近年では、サステイナブル・ツーリズムによって、首都圏からの観光客、海外からのインバウンド客が増加しています。

そこで、江戸東京学を進める法政大学の一学部である人間環境学部は、NPOとの域学連携事業として、2017年度から協働で、地域公共人材の養成を兼ねて学生向け研修プログラムの開発に取り組み始めました。2019年度は、歴史的まち並みに近い観光・交流を目的とする新しい宿泊施設を拠点に地域生活を体感しながら、アカデミックな視点でまちづくりを進め、出版活動も行っているNPOの研修スタッフとして、各種業務体験、関係者や関係団体への調査・取材、地元の「おかみさん会」によるイベントの運営補助などに取り組みます。シビックプライドのまちづくりとサステイナブル・ツーリズムにコミットしながら、地域経営のセンスと主体性を養うことがミッションです。

② 受け入れ団体

特定非営利活動法人佐原アカデミア

③ 対象学生と人数

2年生以上で6～7名（最大8名）とします。

※ローカルサステナビリティ・コース以外にも、サステイナブル経済経営コース、人間文化コースの学生に推奨します。また佐原は成田空港に近く、グローバル化の時代におけるインバウンド需要にも対応する取り組みを進めていますので、グローバルサステナビリティ・コースの学生にも推奨できます。

④ 行程

8日間（2泊3日+2泊3日+1泊2日）

- ① 8/8（木）～8/10（土）の2泊3日、②8/14（水）～8/16（金）の2泊3日、
- ③ 8/19（月）～8/20（火）の1泊2日

⑤ 費用

自宅から現地（JR成田線佐原駅）までの交通費のほか、5日間の宿泊費・食費・資料代等で2万円程度です。

## 2. 募集スケジュール

(1) 募集期間：5月13日(月)～5月24日(金)

(2) 選考期間：5月27日(月)～6月3日(月)

志望調査票に基づいて書類審査(第1次)と面接審査(第2次)を行います。書類選考の結果及び面接審査については、BT24階のキャリアチャレンジ専用掲示板または小島掲示板で、5月27日(月)に確認して下さい。

(3) 追加募集：5月27日(月)以降

応募者が定員に満たない場合は、追加募集を行います。

(4) 選考結果発表：6月4日(火)予定

応募者の人数に応じて選考結果の発表が遅れる場合があります。その場合は、BT24階のキャリアチャレンジ専用掲示板または小島掲示板でお知らせします。

## 3. 応募手続

人間環境学部のウェブサイトを確認してください。

## 4. 事前研修・事後研修等

(1) 事前研修

7月上旬から8月上旬の間に事前研修を行います。日時と場所については、参加決定者にメールで連絡し、さらにBT24階のキャリアチャレンジ専用掲示板または小島掲示板でお知らせします。

※研修生はインターンシップ保険に加入します(学生がキャリアセンターで手続きを行います、費用は大学が負担します)。

(2) 現地研修及び事後研修

コースごとに現地研修を行い、担当教員が巡回して視察します。また秋学期開始後に事後研修を行います。日程は後日、連絡します。

## 5. 注意事項

キャリアチャレンジは、法政大学人間環境学部と受け入れ団体の覚書により実施される社会連携科目であり、双方の信頼関係によって成り立っています。したがって、参加学生は、人間環境学部生としての責任と、域学連携の架け橋になるというミッションを自覚し、現地の諸団体や住民のみなさんと積極的に交流しながら地域に貢献する姿勢で、誠実に研修に取り組むことがもとめられます。

以上のことから、参加が決定した後は、体調不良などやむをえない理由がない限り、原則としてキャンセルはできません。誓約書を提出してもらった場合もあります。

## 6. 問い合わせ先

担当教員の小島 ([skojima@hosei.ac.jp](mailto:skojima@hosei.ac.jp)) までメールでお願いします。